

問1 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。 | 2. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。 | 3. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。 | 4. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。 |
|---|---|--|---|

問2 大化の改新から始まる一連の政治改革において、中大兄皇子らが目指した国家のあり方として最も適切な説明はどれか。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 有力な豪族であった蘇我氏の権限をさらに強化し、貴族たちが合議制によって政治を主導する仕組みを作ること。 | 2. 土地と人民を国家のものとする公地公民を原則とし、天皇を中心とした中央集権国家を確立すること。 | 3. 唐の律令制度を拒否し、日本独自の武士による封建的な主従関係に基づいた政治体制を構築すること。 | 4. 地方豪族を国司に任命してその地域の支配権を完全に認め、地方自治を基礎とした国づくりを進めること。 |
|--|---|---|---|

問3 中大兄皇子（天智天皇）らが、有力豪族であった蘇我氏を打倒して開始した「大化の改新」と呼ばれる政治改革の主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1. 天皇を中心とした、新しい国家のしくみをつくること | 2. 大陸との交易を制限し、独自の文化を育てること | 3. 仏教の力を借りて、国家の混乱を鎮めること | 4. 武士の力を結集し、地方の反乱を抑えること |
|-----------------------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|

問4 663年に、日本（倭）が百済の復興を支援するために朝鮮半島へ出兵した際、唐と新羅の連合軍と戦って大敗した出来事を何とといいますか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|-----------|----------|
| 1. 文永の役 | 2. 壬申の乱 | 3. 白村江の戦い | 4. 刀伊の入寇 |
|---------|---------|-----------|----------|

問5 7世紀から10世紀初めにかけて中国を統一した唐が、当時の日本や東アジア諸国に与えた制度的な影響として、最も適切なものはどれか。 (2018年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. キリスト教の布教とともにヨーロッパの科学技術を導入し、東アジア全域に西洋文化を広めた。 | 2. 土地や人民を国家が直接支配し、法律に基づいて統治を行う律令制度を完成させ、周辺諸国の手本となった。 | 3. 朱子学を国学として採用し、身分制度を厳格に管理する江戸幕府の統治の仕組みを構築した。 | 4. 武士が政治の表舞台に立つ封建制度を確立し、日本における鎌倉幕府の成立に直接的な影響を与えた。 |
|--|--|---|---|

問6 7世紀後半、大和政権が唐や新羅からの侵攻に備えて、主に東国から徴兵した兵士を九州北部の警備にあてた制度を何と呼びますか。 (2025年 奈良県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 防人 | 2. 衛士 | 3. 足輕 | 4. 健児 |
|-------|-------|-------|-------|

問7 7世紀前半の東アジアでは、中国を統一した唐が、朝鮮半島の北部に位置する国を攻撃するなど、軍事的な緊張が高まっていました。このような国際情勢の変化は、日本において強力な中央集権国家を目指す大化の改新が起こる大きな要因となりました。このとき、唐の攻撃を受けた朝鮮半島北部の国名を答えなさい。 (2021年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 渤海 | 2. 新羅 | 3. 百済 | 4. 高句麗 |
|-------|-------|-------|--------|

問8 聖徳太子が、十七条の憲法の中で「あつく三宝を敬え」と記すなど、政治に仏教を積極的に取り入れた目的として最も適切な説明を選んでください。 (2018年 岩手県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 寺院を軍事的な拠点として整備し、対立する豪族を武力によって制圧するため | 2. 仏教の教養を役人の採用基準とするため、中国の「科挙」の制度を完全に模倣するため | 3. 仏教を精神的な支えとすることで、豪族を団結させ、天皇を中心とした国家体制を安定させるため | 4. 大陸から移り住んできた渡来人の勢力を弱め、古来の日本の神々への信仰を独占するため |
|--|--|---|---|

問9 古代の日本の歴史を振り返ると、天皇が積極的に仏教を保護し、各地に大規模な寺院を建立させたことがわかります。このように国家が特定の宗教を重んじた背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--------------------------------------|
| 1. 大陸の進んだ文化や技術を導入し、天皇を中心とした国家の仕組みを整えるため | 2. キリスト教の伝来を阻止し、日本独自の八百万の神々への信仰を一本化するため | 3. 大陸との公的な交流をすべて断絶し、国内の勢力だけで自立した国づくりを行うため | 4. 儒教の教えに基づき、武士が政治の主導権を握るための正当性を得るため |
|---|---|---|--------------------------------------|

問10 672年に発生した古代最大の内乱である壬申の乱の経緯と結果についての説明として正しいものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 天智天皇の死後、皇位継承をめぐる弟の大海人皇子と子の友友皇子が争い、勝利した大海人皇子が天智天皇となった。 | 2. 唐と新羅の連合軍に敗北したことで朝鮮半島から撤退し、国内の防衛体制や政治機構の整備を急いだ。 | 3. 中大兄皇子らが蘇我氏を倒して政治の改革を開始し、天皇を中心とする政治機構の確立を目指した。 | 4. 持統天皇の時代に完成した本格的な条坊制を持つ都であり、古代国家の形成を象徴する出来事となった。 |
|--|---|--|--|

問11 7世紀の東アジアの情勢について、朝鮮半島の北部に位置する国家が唐から大規模な軍事攻撃を受けたことで、日本（倭）を含む周辺諸国の国際的な緊張が高まった状況を説明した文章があります。この文章の中で、唐の攻撃の対象となり、東アジアの緊張の一因となった国家として正しいものを選びなさい。 (2020年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-------|
| 1. 百済 | 2. 加耶（任那） | 3. 高句麗 | 4. 新羅 |
|-------|-----------|--------|-------|

問12 7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）らが中心となって奈良盆地の南部で栄えた、日本で最初となる本格的な仏教文化について、その特色を説明したものとして最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2022年 奈良県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 平安時代に、日本の風土や生活に合わせた優雅で洗練された貴族中心の文化である。 | 2. 聖武天皇の時代に、仏教の力によって国を安定させようとして全国に広がった文化である。 | 3. 中国や朝鮮半島を経由し、インドや西アジアの影響も受けた国際色豊かな文化である。 | 4. 遣唐使が伝えた唐の文化に、力強く健康的な武士の気風が加わった文化である。 |
|---|--|--|---|

問13 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は中国の進んだ制度や文化を学ぶため、小野妹子らを中国へ派遣しました。当時、約300年ぶりに中国全土を統一していたこの王朝の名称として正しいものを選びなさい。 (2023年 静岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 唐 | 2. 隋 | 3. 明 | 4. 宋 |
|------|------|------|------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問2	答え 2 土地と人民を国家のものとする公地公民を原則とし、天皇を中心とした中央集権国家を確立すること。	大化の改新の最大の目的は、それまで有力豪族（蘇我氏など）が私有していた土地や人民を国家のものとする「公地公民」の制を導入し、天皇に権力を集中させる中央集権国家を築くことにありました。これは当時の唐の制度を参考にしたものであり、後の律令国家形成へとつながる重要な改革でした。「国司の権限を強める」という選択肢は、中央集権化とは逆の方向（地方分権）を指すため誤りです。
問3	答え 1 天皇を中心とした、新しい国家のしくみをつくること	蘇我氏のような特定の豪族が政治の実権を握る状況を打破し、土地や人民を国家（天皇）のものとする公地公民の制などを導入しようとしました。これは、当時の中国の律令制度を模範とした中央集権的な国家体制の構築を目指したものです。
問4	答え 3 白村江の戦い	660年に滅亡した百済から救済を求められた中大兄皇子は、百済復興のために朝鮮半島へ大軍を送りましたが、唐と新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗戦の結果、日本は朝鮮半島での権益を失い、国内の防衛体制を急いで整える必要に迫られました。
問5	答え 2 土地や人民を国家が直接支配し、法律に基づいて統治を行う律令制度を完成させ、周辺諸国の手本となった。	唐は律・令・格・式の法体系を整え、強力な中央集権体制を築きました。日本はこの仕組みを取り入れるために遣唐使を派遣し、大宝律令などの制定を通じて律令国家への道を歩みました。他の選択肢は、後の時代（中世や近世）の出来事や異なる文化圏の内容です。
問6	答え 1 防人	白村江の戦いでの敗北を受けて整備された防衛体制の一環として、九州の防備を担ったのが「防人」です。主に東国の農民が徴兵され、3年間の任期で九州へと送られました。この防人たちの故郷を思う心情などを詠んだ歌は「防人歌」として万葉集にも数多く収められています。
問7	答え 4 高句麗	聖徳太子の死後、隋に代わって中国を統一した唐は、領土拡大のために朝鮮半島北部の高句麗へ繰り返し遠征を行いました。この強大な帝国の出現と軍事的圧力は、当時の日本にとって大きな脅威となり、国内の結束を固めて天皇中心の強力な国家体制を整える必要性を認識させました。こうした背景から、中大兄皇子らによって大化の改新が断行されることとなりました。
問8	答え 3 仏教を精神的な支えとすることで、豪族を団結させ、天皇を中心とした国家体制を安定させるため	当時の日本は有力な豪族たちが勢力争いをしており、国家としてのまとまりに欠けていました。聖徳太子は、共通の信仰対象として仏教を広めることで、豪族たちの対立を解消し、中央集権的な国家を作り上げるための精神的基盤にしようと考えました。これは、冠位十二階や十七条の憲法といった制度改革とも連動した動きです。
問9	答え 1 大陸の進んだ文化や技術を導入し、天皇を中心とした国家の仕組みを整えるため	当時の日本は、中国の大陸王朝（隋や唐）のような強力な中央集権国家を目指していました。寺院の建立には高度な土木・建築技術や金属加工技術が必要であり、教典の読解には高度な教育が不可欠でした。仏教を広めることは、これら大陸の先進的な知見を体系的に吸収することを意味しており、それを天皇が主導することで、天皇の権威を高め、国をまとめる大きな助けとなりました。
問10	答え 1 天智天皇の死後、皇位継承をめぐって弟の大海人皇子と子の大友皇子が争い、勝利した大海人皇子が天武天皇となった。	壬申の乱は、天智天皇の死後に皇位継承をめぐって起こった内乱です。勝利した大海人皇子は即位して天武天皇となり、天皇への権力集中を進めました。他の選択肢は、それぞれ大化の改新、白村江の戦い、藤原京に関する説明となります。
問11	答え 3 高句麗	7世紀、朝鮮半島の北部を支配していた高句麗は、中国を統一した隋やそれに続く唐と激しく対立し、度重なる攻撃を受けました。この強力な唐の動きは朝鮮半島全体や日本にも大きな危機感を与え、日本の国内政治が中央集権化へと向かう国際的な背景となりました。新羅は後に唐と結んで、高句麗や百済を滅ぼすこととなります。
問12	答え 3 中国や朝鮮半島を経由し、インドや西アジアの影響も受けた国際色豊かな文化である。	この時期の文化は、大陸との活発な交流により、シルクロードを通じて遠く西アジアやインドの意匠が日本に伝わったことが大きな特徴です。例えば、法隆寺の建築様式などには、ギリシャに見られる柱のふくらみ（エンタシス）の影響があるという説もあり、当時の国際的な広がりを示しています。
問13	答え 2 隋	6世紀末に中国を再統一した隋に対し、日本は「遣隋使」を派遣しました。小野妹子は607年に派遣された代表的な人物です。この時期の日本は、推古天皇の摂政であった聖徳太子らを中心に、大陸の優れた政治制度や仏教文化を取り入れることで、天皇中心の国づくりを進めようとしていました。